
たとえば君がいなくなったら・・・・・・・・

遠美 見

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

たとえば君がいなくなったら……………

【Nコード】

N3417J

【作者名】

遠美 見

【あらすじ】

風邪を引いてしまったキルヒアイス。

こんなときも自分を頼ろうとしない彼にラインハルトは腹を立て、
つい嫌味を……………。

(前書き)

手放せない恋のお題より

01・例えば君がいなくなったら

02・痛みを伴う予感

03・平気じゃないのはたぶん僕

恋したくなるお題 (配布) / 管理人 : ひなた様

<http://members2.jcom.home.ne.jp/seiku-hinata/>

ラインハルトは機嫌が悪い。

例によって自分が勝手に腹を立てているのだが、本人は赤毛の親友のせいだと思い込んでいる困った状態である。

そもそもの原因は、少し熱っぽいといって帰宅後そうそうにベッドに入ったキルヒアイスが、水を飲むために起き出してきたこと。

「具合の悪いときぐらい世話を焼かせろ!!」

と、突然怒り出したのである。普段は縦のものを横にもしないくせに……。

たいしたことはありませんから……といいつつ水を飲み、ついでに水差しに一杯汲んで部屋に戻ろうとすると、ラインハルトがふてくされた顔でぼそりつぶやいた。

「どうせ、おまえは俺がいなくなっても困らないよな」

キルヒアイスは、はあくため息をついた。いつもならここでしっかりとフォローしてやって、この金髪のわがまま王子の機嫌を直すのだが、今日ばかりは全身のだるさに負けて無言のまま部屋に戻り、毛布にくるまった。

あなたがいなくなっても困らない？

そんなわけないでしょ……。馬鹿ですね、ラインハルト様。

そんなこと、10年も前からわかっているのに……。そんなことを思いながらキルヒアイスはうとうとと眠りに落ちていった。

銃口が彼を狙っているのは分かっていた。それなのに……………

体が、動かなかった……

声も、出せなかった……

どうして助けられなかったんだろう……

プラスターの閃光、肉体の焦げるにおい、そして、流れた鮮血の
赤……

全部はつきりと分かるのに

何故、動けないんだ　僕は？　動いてくれ！！体……

「うああっつー！！」

気がつくところには、戦場ではなくベッドの上で……

キルヒアイスは全身に冷たい汗をかいていた。心臓はこれ以上な
いくらい速く鼓動を打ち、息も乱れていた。

「ゆ……め………?」

ふと右手を見るとがたがたと震えている。

「おい……キルヒアイス?」

突然寝室から聞こえた悲鳴に驚いたのか、ラインハルトがいぶかしげな顔を覗かせる。

「……あ……ア………」

のどの奥に何か大きな塊があるみたいに痛くて、声は出せず、た

だ涙が出る。

「・・・なに、お前・・・泣いてるのか」

ラインハルトは、夢を見て泣くななんて・・・子供みたいだと言
って、なぜか楽しげにクツクツ・・・と笑った。

その瞬間、キルヒアイスはベッドから飛び起きて、ラインハルト
を抱きすくめる。

衝撃でラインハルトは後ろ向きにひっくり返し、「ごんっ」と床
板で派手に頭を打った。

「だっ！！」

本気で痛かった。キルヒアイスはそんなラインハルトを無視して
そのまま腕に力を込め続ける。

デカイし重いし馬鹿力だし・・・

「離せ〜！！ 重い〜！！ 苦しい〜！！」

「・・・あなたが、悪いんですよ。ラインハルト様」

「は？」

「あんなこと言うから・・・」

「俺、なんか言ったか・・・？」

「いなくなるなんて言うから！！」

ああ・・・と、ラインハルトはまた笑って、俺が殺される夢でも

見たのか、と言った。

キルヒアイスがうなずくと「馬鹿だな、そんなわけないだろ」といつものように赤い巻き毛を細い指にからめた。まだ止まらない涙をもてあましながらかルヒアイスも笑う。

そして、また抱きしめあう。

お互いを確かめながらどちらも同じことを考えている。

「例えば君がいなくなったら、平気じゃないのはたぶん、僕」

END E

（後書き）

下宿で二人暮らしをしているときの赤金が大好きなのです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3417j/>

たとえば君がいなくなったら・・・・・・・・

2010年10月28日03時45分発行